

和歌山盲学校 令和7年度 第2回学校運営協議会記録

開催日時:令和7年7月31日(木)

9:30~11:30 和歌山盲学校会議室

出席者:委員6名、

傍聴人(本校職員等)10名

協議会趣旨:和歌山盲学校の幼児児童生徒の育ちを支えるため、学校の現状や課題を共有し、学校、家庭、地域が互いの役割を活かしながら協働して特色ある学校づくりを推進する。

<開会>

○会長より、小学部が参加した始球式について話題提供。

児童がホームベースからマウンドまでの距離を歩き、マウンドでプレートを実際にさわる場面に「盲学校らしい」丁寧な支援があったことを共有。



<報告>

【①本校育友会の取組について】

○教頭より今年度の取組(計画含む)について説明。近畿盲学校 PTA 連絡協議会研修会では「交通安全」が取り上げられ、参加した前田委員や梶本委員が速度や車種による電気自動車の音の違いや、音声信号の機能等について報告・説明した。保護者である前田委員からは「いろいろな人から情報を知ることができたら、家でも生活が楽しくなる」と発言があった。教員・保護者・地域の方など一人のこどもをそれぞれの角度から支えることが大切では、という意見が出された。

【②キャリア教育の取組について】

○進路指導部長より本校と紙の杜さんのコラボ企画(小・中・高等部それぞれの段階のキャリア教育の展開や、地域貢献活動等)について説明。地域貢献では、「地域の困りごとを掘り起こすことで学校ができることがあるのでは」といった意見や、「キャリア教育とは最終的に自分が他者と生きることを喜べること、自分が社会の中で価値があると思えること」といった意見が出された。一過性の企画とせず、継続していくために地域(ヨコのつながり)だけではなく、校内(タテのつながり)の組織づくりをすることの意義について意見が出された。

<協議>

【学校教育目標の見直しに向けて~和歌山盲学校でつきたい力~】

○委員及び参加した教員が2つのグループに分かれ、学校教育目標の見直しに向けて、和歌山盲学校でつきたい力について協議した。

- ・支援の枠組みの中で生きるのではなく、自分の意思を持てるようにこどもの土壌を育てることが大切。
- ・周囲が可能性を狭めない。チャレンジを後押し!
- ・学校にいる間に広い社会を知りながら、自分の幅を広げていく。

- ・コミュニケーションの力を高める(受信、発信、相手の意図を踏まえて折り合いをつけられる力)
- ・人間関係を築いていく力

<連絡>

○点字考案200周年の今年、点字を広く啓発するため県教育委員会事業「わかやまスクールパワーアップ事業補助金」に申請(※7/31付けで交付決定)

